

議事録	会 議 名			
	・（仮称）静岡県東部地域サッカースタジアム構想連絡会設立準備会 ・ 第１回静岡県東部地域サッカースタジアム構想連絡会			
日 時	平成 30 年 2 月 2 日 (金)	14:00～16:00	会 場	沼津商工会議所 4 階大会議室
出席者	一般財団法人静岡県サッカー協会 専務理事			竹山勝自
	一般財団法人静岡県サッカー協会東部支部 会長			坂根英夫
	アスクラロスルガ株式会社 代表取締役副会長			山本浩義
	アスクラロスルガ株式会社 代表取締役社長			渡邊隆司
	静岡県東部地域スポーツ産業振興協議会（E-Spo） 専務理事			宮崎眞行
	N P O法人沼津市体育協会 会長			臼井勇二
	法政大学経済学部 教授			杉本龍勇
	N P O法人くらしまち継承機構 理事長			伊藤光造
	静岡県商工会議所連合会			欠席
	静岡県商工会連合会 専務理事			池谷 廣
	沼津商工会議所 専務理事			杉山金芳
	沼津市商工会 事務局長			喜多 晋
	N P O法人沼津観光協会 会長			土屋雄二郎
	沼津市自治会連合会 会長			榊原昭雄
	一般社団法人沼津青年会議所 副理事長			竹村俊克
	三島市 副市長			小坂寿男
	富士宮市 スポーツ振興課長			長谷川和彦
	富士市 スポーツ振興課長			影島統子
	沼津市 市長			大沼明穂
	沼津市 企画部長			後藤克裕
	沼津市 産業振興部長			光林 治
	静岡県 東部支援局長			広岡健一
	静岡県 スポーツ局長			望月宏明
	静岡県 都市局長			小澤伸行
	公益社団法人日本プロサッカーリーグ（Ｊリーグ） 理事			木下由美子

次 第	(仮称) 静岡県東部地域サッカースタジアム構想連絡会設立準備会	
	1	開会
	2	発起人あいさつ
	3	議事（１）(仮称) 静岡県東部地域サッカースタジアム構想連絡会の設立について
	4	その他
	5	閉会
	第１回静岡県東部地域サッカースタジアム構想連絡会	
	1	開会
	2	規約について
	3	会長選出
	4	講演「Ｊリーグのある風景～地域の発展とともに～」(Ｊリーグ・木下由美子理事)
	5	議事（１）連絡会の方向性について 議事（２）スタジアムを通じて地域が目指す姿
	6	その他
	7	閉会

要 旨	
1	本連絡会発起人である沼津市、アスルクラロ沼津、静岡県サッカー協会東部支部を代表し、アスルクラロ沼津の渡邊代表取締役社長が本連絡会の趣旨説明（別紙趣意書）を行った結果、参加者の賛同により本連絡会が設立され、引き続き第1回連絡会が開催された。
2	発起人の作成した規約案が参加者の承認を受け、会長に法政大学の杉本龍勇教授、副会長にNPO法人くらしまち継承機構の伊藤理事長が選出された。
3	公益社団法人日本プロサッカーリーグ（以下、Jリーグ）の木下理事から、Jリーグの理念とスタジアムについて講演いただいた。
4	意見交換・主な意見 【新スタジアムについて】 ・サッカーのためだけのスタジアムでは赤字施設になってしまうので、サッカーやスポーツに関心のない人こそ日常的に集まる施設としたい。防災拠点の機能もほしい。 ・施設単体では赤字かもしれないが、東部全体への経済波及効果も考慮したい。 ・まちのにぎわいになるよう、また富士山や伊豆へと人の流れができるハブになるものがよい。 ・立地は郊外ではなく駅に近いほうがよい。 ・行政に頼るのではなく、ビジネスの機会として民間の参画を進めていくべき。 ・アスルクラロが東部地域でもっと愛される、応援される風土になることが重要で、これがあって広域の中のスタジアムとはどのようなものかという話につながる。 【現ホームスタジアム・愛鷹広域公園多目的競技場について】 ・J2に適合できるよう改修しアスルクラロがJ2昇格を目指せるようにしたい。 ・アスルクラロのためだけ、また沼津市のためだけということでは県民の改修への理解は得られない。東部、伊豆全体の動きになっていかなければ改修は難しい。愛鷹競技場は多目的競技場であるため、改修には他競技団体の理解も必要。またJ1対応新スタジアムの計画があって初めて愛鷹競技場の改修内容が決まってくる。 ・沼津市は愛鷹競技場のJ2対応改修について調査を行っており、第3回の連絡会で結果報告できるよう予定している。 【連絡会進め方等について】 ・平成30年5月までに4回を予定しているが、これはアスルクラロが次の6月末にJ2リーグライセンス申請を目指しており、それまでに新スタジアムの構想をまとめる必要があるため。 ・当面予定している4回の連絡会では、東部地域の意見集約は難しい。4回で初期構想やパイロットプランといったものの取りまとめは目指すが、以後も継続的に続けていく必要がある。 ・東部全体の自治体や民間の幅広い参画を目指していく。 ・連絡会の検討内容には新スタジアムのことと愛鷹競技場のこと両方含まれるが、どちらかに重点を絞っていったほうがいいのか。 ・実際の立地や機能を検討する段階では、連絡会の下に専門チームが必要ではないか。

発 言 録	
発言者 (敬称略)	内 容
	< 設立準備会 >
沼津市 高橋	本日はご出席いただきましてありがとうございます。ただいまより（仮称）静岡県東部地域サッカースタジアム構想連絡会設立準備会を開催します。 進行を務めます沼津市観光戦略課、高橋と申します。 また本日の会議は公開により行われることをあらかじめご承知おき願います。 それでは初めに開会にあたり発起人三者よりごあいさつ申し上げます。
沼津市 大沼	本日はご多用の折、本連絡会設立準備会にご出席いただき誠にありがとうございます。この会の発起人としてごあいさつ申し上げます。 本市では、スポーツツーリズム推進の観点から東京オリンピック・パラリンピック開催を契機とした事前合宿の誘致やサイクルフレンドリー事業などに取り組むほか、アスルクラロ沼津のホームタウンとしてクラブと共にスポーツを通じた活気あるまちづくりを推進しているところであります。 もとよりサッカーへの関心が高い本県であります。この東部地域でも初の J リーグチームとなったアスルクラロ沼津というシンボルを得たことでサッカーを通じた地域の一体感というものが増してきたことを強く感じております。 また、昨シーズンを通じて愛鷹競技場のホームゲームでは、平均 3,000 人以上の集客があり、競技場の内外では常に多くの人達でにぎわう姿を見せておりました。 こうしたプロスポーツの興行を最大限活用することで、にぎわいの創出、また、地域経済への波及だけでなく、地域の魅力を全国に発信するシティプロモーションの効果をもたらすことが期待できるものであり、チームが上位リーグに進むほどより大きく広く地域に還元されていくものと思います。 こうしたことからこの地域に生まれた新たなにぎわいや観光の種を地域共有の資源として捉え、それを活かした将来のまちづくりについて、みなさまと幅広くご意見を交わしていくことができると考えておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。
県サッカー協会東部支部 坂根	静岡県サッカー協会東部支部会長の坂根と申します。 まず、静岡県のサッカーの現状を少し紹介します。県サッカー協会は 5 支部に分かれていますが、富士川以東が東部支部、清水が中東部支部、静岡市が中部支部、志太榛原が中西部支部、その西側が西部支部となっています。登録人数は 4 万人、そのうち東部は 1 万人です。そして全県では 1,200 チーム、東部には 300 チームございます。 また、静岡県は磐田、清水、藤枝にプロチームがあります。その中で最後に出てきたのが東部のアスルクラロ沼津です。我々としては、プロチームは東部で出てくるのは難しいかなと思っていましたがここにプロチームが立ち上がってきたということで非常に歓迎しています。

	いま東部地域の状況として、御殿場時之栖には、全国からサッカーをしに、そして泊まりに多くの人が来ており、そのような地域としては日本一だと思います。このあたりは雪も降らずスポーツが盛んにできる地域です。 現状はあまりにアスクラロの走り方が早く、それに追いついていないという状況です。 私はＪリーグのマッチコミッショナーなど、全国で務める経験から、どの地域でも苦勞している中、よくアスクラロがスタートしたなど、これは単独でできるものではなく東部一円でやらなければと。 全国あらゆるところでＪ１からＪＦＬまでありますが、たぶんどのチームも現状が違う。そのため地域に見合った、現状に合った形で今後進めていかなければならないと思います。 今、選手も、ファンも、上昇気流に乗っています。スタジアムについては、これを逃してしまったら、おそらく１０年、２０年と時間がかかってしまう。チャンスは逃すべきではないと思っています。 子供たちに夢と希望を持たせながら、そして、新スタジアムがレガシーとして、東部一円のハブとして、東部全体に波及させて、この東部が明るく楽しいスポーツの文化やまちになっていけばと思ひまして、この発起人の一員としてサッカー協会の名前を出させていただきました。 現在のホームスタジアムの愛鷹競技場の改修工事、これができないとまずＪ２に上がれません。Ｊ２・Ｊ１となると人の集まり方が違う。サッカーはこんなに面白いのかスポーツはこんなに素晴らしいのかと広がっていくと思います。 人口減少の中で経済効果が波及すれば若者たちが残って人口を増やしてといういい循環になってくれるのではと思っていますので、ぜひみなさん方のご協力をお願いしまして、私の発起人としてのあいさつに代えさせていただきます。
アスクラロ 渡邊	アスクラロ沼津の渡邊でございます。市長を始め、お二方から大変力強いメッセージをいただきましてありがとうございます。 私どもアスクラロ沼津は昨年初めてＪ３に参入しました。選手はがんばって最終節まで優勝争いを繰り広げました。 最終節に愛鷹に来ていただいた入場数は８，６４９人でした。聞くところによると、帰りの三島駅ではお土産を持った黄色いユニフォーム姿の栃木のファンがホームにあふれ、前日の沼津駅近辺では栃木のファンとアスクラロの青いシャツを着たファンが一緒に飲んでいたということです。すばらしい、多くの人々が集まる、これがスポーツの本来の姿だと思っております。 やがてＪ２、Ｊ１と上にいきますと、数万人という規模に広がっていきます。競技場は、私たちアスクラロだけがやるものではないと思っています。Ｊリーグの基本理念は、地域と共にあるというものです。地域の活性化なくしてはわれわれの発展ありません。 話は変わりますが、昨シーズン後半、将来我々はＪ２に行けるのでしょうかと何人かの選手から聞かれました。現状では、Ｊ２へは行けません。選手はそれを乗り越えて、必死に最後まで頑張ってくれました。中には、Ｊ２に行けるチームに行きたいと我々のところを離れた選手もおります。ただし、今季は１３名の新しい選手が我々のチームに入ってくれました。その中に

	は静岡県出身選手も４名おります。選手はピッチを一生懸命走りますが、私たちは若い夢を壊さずにピッチの外をピッチとして一生懸命走りたいと思います。 ただ、スタジアム構想・改修等は私たちの力だけではどうしようもありません。ここに今日、参集いただきました各団体のみなさまと地域一体となって盛り上げて、第一歩を踏み出していきたいと思います。よろしくお願いいたします。
沼津市 高橋	続きまして議事に入らせていただきます。 （仮称）静岡県東部地域サッカースタジアム構想連絡会設立について、アスルクラロスルガ渡邊社長からご説明願います。
アスル クラロ 渡邊	今回の連絡会設立の趣旨につきましては、すでにみなさまに設立趣意書という形でお送りしてございますが、改めてご説明します。 Jリーグのホームゲームは、県外からのサポーターなど多くの誘客や観光振興に寄与するスポーツツーリズムの重要なコンテンツであり、そこでの賑わいは単なるスポーツ振興にとどまらず、今後地域経済や交流の核となっていくものと思われます。 このようにプロサッカー клубによる地域の活性化をより推進していくためにチームは基盤を強化しつつ、地元にも愛され活動していくことはもちろんですが、その拠点となるホームスタジアムが様々な機能を持ち、多くの人々が楽しみ過ごす場所となっていくことが望まれます。 ついでに、将来の県東部地域のにぎわいの拠点となるスタジアムについて、地域の関係者が会して整備の道筋を得るため、様々な議論の受け皿となる会の設立を発起する次第であります。 この会議は趣旨に賛同する有志により設立されるものであり、この地域にスタジアムを整備するのであればどのようなものが望まれるのかともに思い描いていく場と考えております。 以上が設立の趣旨でございます。ご承認いただきますようお願い申し上げます。
沼津市 高橋	ここで皆様方にお諮りいたします。本件につきまして、ご承認いただける方は拍手をお願いいたします。
一同	＜ 拍手 ＞
アスル クラロ 渡邊	ありがとうございます。皆様の多数のご承認をいただきましたので本日より会の設立とさせていただきます。今はまだこうした機運も産声を上げたばかりであり、第一歩でございます。これから全力で前へと進んでいきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。
沼津市 高橋	ありがとうございます。皆様方のご賛同を得て、連絡会が設立されたことを持ちまして本設立準備会は閉会といたします。引き続き第１回静岡県東部地域サッカースタジアム構想連絡会をこの場において開催したいと思います。準備がございましたのでそのままお待ちください。沼津市長につきましては別の公務のため、退席させていただきます。
	＜ 第１回連絡会 ＞
沼津市 高橋	ただいまより第１回静岡県東部地域サッカースタジアム構想連絡会を開催いたします。早速ですが次第に沿って進めて参ります。 初めに、次第２の規約についてですが、あらかじめ発起人の方で案を用意させていただいております。資料をご覧ください。

	この会は将来の静岡県東部地域におけるにぎわいづくりの拠点となるサッカースタジアムの整備に向けた道筋を得るべく地域での議論の受け皿となり、望まれるスタジアムの構想を検討・作成することを目的とするものであります。会員は必要に応じて増員することができ、また、検討事項の内容に応じた者の出席を求めることができます。事務局はアスルクラロ沼津と沼津市が共同で行い、静岡県サッカー協会東部支部に運営のご支援をいただきます。 以上が本規約案の内容になりますが、みなさまにお諮りします。本件についてご承認をいただける方は拍手をお願いいたします。
一同	< 拍手 >
沼津市 高橋	ありがとうございます。承認多数によりまして本規約は成立いたしました。以後は事務局として会を進めさせていただきます。 次に、次第3の会長選出です。規約に基づき会員の互選により会長を置くこととしておりますが、どのように選出したらよいか伺います。
	< 事務局一任 >
沼津市 高橋	ただいま事務局一任とのお言葉をいただきましたので、提案をさせていただきます。今回学識経験者の方にご出席をいただいておりますが、中立的な立場から、また専門的知見によりこの会をリードしていただきたく、会長を杉本様にお願いしたいと考えますがいかがでしょうか。
	< 拍手 >
沼津市 高橋	それでは会長に選出されます杉本様から一言お願いいたします。
会長 杉本	法政大学経済学部 of 杉本です。沼津市出身で、小学校6年間サッカーをして、その後陸上に進みスポーツは長く携わっていました。現在、大学ではスポーツ経済学を専門にしており、スポーツが地域にどのような経済効果をもたらしているのかなどを研究しています。これらを踏まえてぜひこの沼津に新しいスタジアム、そしてこの地域に経済的にも大きな活気が及ぶような企画ができたかなと思いますので、みなさまよろしくをお願いいたします。
沼津市 高橋	次に副会長を選出したいと思いますが。規約により、会長が指名するとしておりますので、杉本会長にご指名をお願いいたします。
会長 杉本	やはり単なるスタジアムを作るためではなく、まちづくりの一環としてスタジアムが存在するということから、NPO法人くらしまち継承機構理事長の伊藤様にお願いしたいと考えています。どうでしょうか。
副会長 伊藤	ただいま副会長をご指名いただきましたNPO法人くらしまち継承機構の伊藤です。私は地域計画、都市計画を専門としており、沼津市を始め県内の各地のまちづくりをお手伝いしてまいりました。スポーツ関係で思い起こすのは、2003年に静岡国体がございましたが、その基本計画の策定やエコスタジアム建設関係の委員会などいくつかに参加してまいりました。そのような中でご指名をいただいたかと思いますが、市長様、会長様、社長様のごあいさつにもあったとおり、地域づくりと一体となったスタジアム構想が私から見ても重要と思います。そういった面で会長をサポートできればと思います。よろしくをお願いいたします。

沼津市 高橋	それではこの会の体制が整いましたところで、スタジアムを通じたまちづくりへの理解を深めるためＪリーグ 100 年構想と地域での具体化について、Ｊリーグの木下理事から、Ｊリーグのある風景～地域の発展とともに～と題しましてお話を伺いたいと思います。
Ｊリー グ 木下	みなさまこんにちは。いまご紹介にあずかりましたＪリーグの木下と申します。 本日はこのような場にＪリーグも参加させていただきまして、本当にありがとうございます。 まずはやはり昨シーズンＪリーグに参入したばかりであるような快進撃をアスクラロ沼津の活躍を挙げたいと思います。ここに来るまで、皆様にとっては地元のクラブなので当然だろうと思われるかもしれませんが、参入一年目であるような活躍ができるというのは、それまで築かれてきたクラブ関係者の努力の賜物ではないかと思います。それを支えてくださったサッカー協会や地元の方、ファンの方があってのクラブの活躍だと思っています。 それを今後もサポートするという意味でこの連絡会が立ち上がっていると思いますので、今日はＪリーグの理念に立ち戻りながら新しいまちづくりというのが、Ｊクラブ、Ｊリーグがどのように携われるのか私どもの立場からお話しできればと思います。 Ｊクラブはまさしく地域の発展と共にあるというのがＪリーグの理念そのものです。Ｊリーグは 1993 年、ちょうど 25 年間に開幕しました。サッカーの面では、プロ化前はワールドカップには出場できない時代が長く続きました。プロ化したからというわけではないですが、Ｊリーグの存在が日本サッカーの強化にもつながったといっても過言ではないと思います。 私は立場上、タイやシンガポールなど東南アジアの方とお話しする機会も多いのですが、この 25 年での発展、日本のサッカーはすごいとよく言われます。地元の方、ファン・サポーターの方、協会の方、みなさんの力でＪリーグはここまで来たとはいえると思います。今年は 25 周年目ということでいろいろな活動をしていきたいと考えていますのでみなさまのご協力を仰ぎながらと思います。 この中でやはり大きいのはクラブ数の増加ということではないでしょうか。10 クラブで始まったＪリーグは、いまや 54 クラブ、全国 38 都道府県にまたがっております。Ｊクラブがない県の方が少ない状況になっています。アスクラロ沼津はこの中でも 54 番目の一番若いチームです。このように広がっていったのはＪリーグの理念にみなさん賛同していただいていたからではないかと思います。 100 年構想を紹介する今年作成したポスターを紹介します。今から 50 年前サッカー日本代表選手たちは遠征先のドイツで、芝生の上でスポーツを国籍、年齢、障害、性別といった区別は何もなく、老若男女誰もが好きなスポーツを楽しむ風景を目にしました。これをきっかけにＪリーグはもっともっといろいろなことをしていきたいと締めくくっています。 Ｊリーグはサッカーだけではなくスポーツを通じてまちづくりをやっていききたいと、それはこの 25 年間変わらず突き進んできたと思いますし、先ほど設立のごあいさつを伺ってもそのように語っていただいた方々がいらして、本当に心強いと感じています。

現チェアマンの村井が来てから、Ｊリーグそのものの目指す姿と重点戦略テーマということで、この六つの重点戦略項目、目指す姿というものを謳って参りました。この中で、一つの中核をなしうるのが、スタジアムという項目です。これは単にスタジアムを作ればよい、サッカー専用であればいいということではなく、スタジアムがどのように地域ににぎわいをもたらせるものになるのかということがポイントになります。スタジアム中心に考えてみると、スタジアムを核としたまちづくりとして、人が集まる場所としていろいろな可能性があるのではないかと。これはその地域にあった部分を取り上げながら考えていくというのがやはり大事になってゆくのではないかと考えています。

< ビデオ >

今ヨーロッパの例を紹介しましたが、社交場が好きなヨーロッパ人はそのようなものを求めているのであって、ビジネスラウンジを作ればいいということではありません。自分たちのまちに合うのは何だろうということだと思います。

< 最近の国内スタジアムの写真 >

(スタジアム片側が低く山の望める長野のアルウィンスタジアムや、3.11 津波被害後に防災拠点も兼ねて整備された八戸のダイハツスタジアム等) このように地域それぞれ工夫しながらスタジアムに向き合っている状況です。

< シンガポールの複合型スタジアムの写真 >

日本ではあまり知られていないものですが、シンガポールのスタジアムの例を紹介します。去年の秋にオープンしたのですが、一見、ショッピングモールですが、最上階にサッカースタジアムを兼ね、全体で地下２階から７階までいろいろな機能を踏まえた複合型のものです。憩いの場、スポーツ施設、市役所機能、図書館などが入っていて、シンガポールリーグのチームがホームスタジアムとしています。シンガポールは日本以上に土地がないところです。パンフレットにあるとおり、作るに際して１２の市民団体が、複合的なみんなが楽しめる施設を作ろうと集まって２年かけいろいろな調査をしてみんなのニーズをくみ取って街中に作ったものです。市民団体が２年かけて作ろうよと言ってできたスタジアムは、地域経済活性化の拠点となり得るモデルではないかと紹介させていただきました。

Ｊリーグの理念は、サッカーの向上や豊かなスポーツ文化の振興は地域の活性化があつてのことです。直接スタジアムとは謳っていませんが、スタジアムは一つのハブになりうるのではないかと考えています。地域振興のためＪリーグは何ができるのか、を表す図では、円の中心に、にぎわいのあるスタジアムがあります。みんなが集まることから波及していくというイメージです。Ｊリーグは自分たち中心主義だと言われるかもしれませんが、私たちＪリーグはそれができると考えています。

この地域で、おらがまちのサッカーチーム、おらがまちのスタジアムが実現される日を楽しみにしています。

沼津市

大変興味深いお話をありがとうございました。

高橋	それでは、規約により、以後の議事の進行は会長をお願いします。
会長 杉本	それでは次第に沿って、連絡会の方向性について事務局から説明願います。
アスル クラロ	連絡会スケジュール案という資料をご覧ください。本連絡会は当面4回の会議で初期構想案を取りまとめることを中間的な目標とします。 日程は本日第1回にて連絡会の目指すべき方向性を会員間で共有します。
清水	第2回3月22日にて、スタジアムを通じた将来像の検討として連絡会構想に盛り込む事項と内容について検討します。 第3回は4月を予定し、スタジアム整備の方向性の検討と沼津市が別途実施している調査結果の報告も予定しています。この調査はアスルクラロの昇格に伴う賑わいづくりや愛鷹多目的競技場の調査となっているものです。 第4回は5月を予定し、これまでの検討結果の確認・取りまとめと、今後の連絡会の活動についての検討を予定します。 なお、全4回の区切りになっているのは、Jリーグの翌シーズンに向けたライセンス申請は毎年6月末日となっているためで、5月には中間的な構想を形にしていきたい。ただ、状況によって以後も継続する可能性があると考えています。
< 以下、意見交換部について発言要旨 >	
会長 杉本	6月のライセンス申請に向けてということなので、本日から4回しかないのかかなりのスピードを進めなければならない。これはライセンス申請に向けたスケジュールで、申請ありきということで理解いただきたい。ただし、現段階で建設主体や建設地まで4回で決めていくのは難しい。ホームスタジアムとしている既存の愛鷹競技場もどう活用していくかも含めて、何年後に向けて、などとスタンスを決めていければと思う。 スタジアムを新設するには、官民間問わず地域で負担していくことが重要。顕著な例では、国体が毎年各都道府県に回っていくが、競技場は既存改修、新設となる。郊外に作られ終わればまったく使われないという遺産になっている例が多い。今回、わざわざ地域で会を立ち上げたからには、新しい形のスタジアムを具体化する必要があり、共通理解を持っていきたい。 理念としてはいいものが掲げられる傾向があるが、今まで日本で実現した例はなく、沼津が最初の例になる気概を持ってできればいい。
県東部 支援局	東部地域でこのような集まりができ東部地域の魅力を高めていこうという活動は、東部地域の所管の立場として大変すばらしいことと思う。 質問があるが、まずこの会のメンバーは固定なのか。また、会員はだれか明確にわからない。
広岡	6月のライセンス申請とは、いまの状態をもう一度Jリーグに認めてもらうものなのか、みなさんわからないと思う。5月までのスケジュールだが、作業部会はどうか。
沼津市 高橋	会員等資料については次回にお示しします。作業部会についてですが、本連絡会は非常にタイトなスケジュールとなっており、当面の4回の中では今のところ考えておりません。
アスル	ライセンス申請について説明します。毎年Jリーグでは6月に、翌年のシーズンをどうするか

クラロ 渡邊	という点を J リーグに申請します。みなさんのご協力が得られれば、またその見通しがあれば次の 6 月に J 2 のライセンス申請を行いたい。しかし申請後に J リーグが審査するのでどうなるかわからない。 現在の愛鷹競技場について施設の基準を満たし新シーズンに間に合うような具体的な工事日程、ロードマップができるなど確実にできる状況であれば J 2 ライセンスの申請をしたいと思っている。ただこれにはみなさまのご協力なくしてはできない。
サッカー協会 坂根	今の説明ではまだみなさんわからないのでは。可能性があるかはわからないが、もっと具体的にアスルクラロの考え方、J 2 に上がるためには今、何をやらなければならないかをわかりやすく説明してほしい。
アスルクラロ 渡邊	上位リーグに昇格するためのスタジアム基準には座席や、諸室や屋根の整備などいろいろなものがある。我々としては J 2 に昇格できるよう愛鷹競技場を改修していきたいが、例えば屋根の基準は、将来、新スタジアムを作る予定があつていつころかと具体的なものがあれば一部は緩和される。賑わいづくりの拠点となる新スタジアムをセットに考えなければならない。 クラブは去年 7 月 31 日に 10 年計画を出しましたが、なるべく早く J 2 に昇格し、10 年たったら J 1 に昇格したいという内容。その時にはこの地区に 1 万 5 千人以上収容のスタジアムが実現しているというもの。 単純に J 2 に昇格したいから愛鷹を改修してください、ということでできるわけではない。サッカーをやるためだけではなく、人の集まる賑わいの拠点づくりとして考えるもののご理解いただきたい。沼津市や静岡県東部はすばらしいポテンシャルを持っていて、経済力もある。昨シーズン、J 3 のすべてのアウェー戦に行ったが、静岡県ほど景観もよく、雪も降らない、優れた地域は他にない。この魅力を活かした構想を作していきたい。
会長 杉本	次の次第ですが、スタジアムを通じて地域が目指す姿について話をしていきたい。題目はフアジーな表現ですが、これは、スタジアムは建てばよいというわけではなく地域がどのようなっていけばよいかが大事な考え方になり、広く意見を集めていくためと考えています。 J リーグの講演にもあったが、多くの人が使うということが大前提にならなければならないと思う。私も選手としていろいろな競技場にお世話になった。ドイツでも見てきているがスタジアムはお金にならないということをまずは皆さんの共通理解としてほしい。 アスルクラロが本拠地とするスタジアムができたとして、年間ホームゲームは多くても 30 日程度しか稼働しない。このようなスタジアムに税金を投入して作っていたのが、これまでのスタジアムの課題。エコパは年間 7 億 9 千万円、収益は 2 億 2 千万円しかないというデータがあつたがそれでは困る。 なるべく公益性を高めることが重要で、そのためにはスポーツをしていない人こそ恩恵を受けるとするのが重要となる。成人では週一回スポーツをする人は半分もおらず、40%台で推移している。スポーツは世の中で重要視されているにもかかわらずそこまでコミットしている人は少ない。スポーツ全体の観戦者も述べ人口約 2,100 万人、全人口の約 6 分の 1 しかスポーツ観戦に訪れていない現実がある。スポーツがなくても世の中は回ると言える。ここで新し

	くスタジアムを建てると考えると、いかにスポーツに強くコミットしていない人も巻き込んで使っていけるスタジアムを計画するのがこれからの施設行政では非常に重要になる。 Jリーグチームが成績を残すと、自治体にスタジアムを改修してくださいと要望する向きがある。しかしJリーグは民間企業なので本来はスタジアムの土地まで含め、自分で建てるべきである。Jリーグ側から自治体にスタジアムを用意してもらおうとあらかじめネゴシエーションされていればいいが、実際にはそうになっていないとみている。チームの成績がいいのでじゃあ作りましょうということにはならない。 多くのスポーツにコミットしていない人からの賛成を得る必要がある。税金の使途としては厳しい目がある。大規模施設であればあるほど世論は厳しくなる。単にサッカー、スポーツのできるスタジアムではなく、スポーツに関係のない人が使っていけるという点では、地域住民の所有になるアイディアも必要。 ヨーロッパは日本ほど娯楽がない。土日は店が閉まり、他にスポーツ観戦しか娯楽がない。単純に欧米の事例を持ち出して人が集まるといっても日本とは状況が違うので、日本、東部の地域性にあったものを考える。スポーツに関心のない人でも足を運びたくなるスタジアムが重要ではないかと考えている。 私の視点を述べたが、みなさんブレインストーミングですのでどうでしょう。
沼津市 体育協 会 臼井	この会はスタジアムを構想する会だが、愛鷹も新スタジアムも話していく様子。どちらに重きを置いていくのか。どちらかに決めた方がいいのではないかな。決めないと進みにくい。
会長 杉本	新スタジアムと愛鷹競技場の二つテーマがあるが、今後どちらに寄せていくかこの場で話をしていきたい。 捕捉になるが、スポーツのみでペイできている施設は日本にも世界にもない。東京ドームは使用料が約1,200万円かかる。私のゼミ生が新国立競技場について算出した所、黒字化するには年間250日くらいアイドルコンサートをしなければならないレベルだった。私としてはスポーツだけではない施設、ホームスタジアムでありながらサッカーが間借りをしている、というようなイメージを持っている。利用頻度、利用者で言えばサッカーに関係ない人の方が多いという方向性の方が財政面、社会情勢ではこれからの時代にマッチしていくのでは。これが実現すれば日本での初めてのものになる。
サッカ ー協会 坂根	時之栖はドイツのスポーツシュレーの発想。クラブがあり、サッカーの他、多種の競技がある。ロケーションは最高で、箱根を超えれば1千万以上の人口がいる。 愛鷹競技場は県の施設である。実現するには県民に賛同を得ることが重要。そのためには、愛鷹競技場を防災の拠点として整備したらどうか。 愛鷹競技場は防災拠点、新スタジアムは防災に加えて楽しめるようなスタジアムになれば。
E-Spo 宮崎	E-Spoは、スポーツを通じてどう経済に落としていくかをこれからの時代、狙う必要があると考えている。一つはスタジアムを拠点としたまちづくりになるが、もう一つはアスルクラ

	ロをもっと愛してもらうことが重要ではないか。応援してもらう風土を作っていないと文化になっていかない。E-S p o では昨シーズン、一回は一万を超える試合をやろうという企画したり、アスクラロと自治体間のパートナーシップ協定締結を仲立ちするなどしてきたが、アスクラロの会員を増やすとかファンを増やしていきたい。これが広まっていくことによって機運が盛り上がり、これをもとにスタジアムの構想が出来上がる。このような場を通じて広域の中のスタジアムとしてはどういうスタジアムがいいだろうという話が今後できくと思う。
会長 杉本	副会長はどうでしょうか。
副会長 伊藤	サッカーだけでなく広く関心を集めていくと考えると、4回の会合ではタイト。幅広い意見を集約して6月の申請に間に合わせるのは難しい。とりあえず4回開催したところで、パイロットプランとして作ることになる。そのあとパイロットプランを基にスポーツ関係者以外の意見も含めより幅広く中身の熟したものとしていくというロードマップが大切。さらにそのためには伊豆地域、東部地域の幅広い参画を得ていかなければいけない。パイロットプランの最後にそれを入れる必要がある。 また、立地や基本機能の面で、専門チームが動かないと難しいと思う。連絡会はまず頭にくるもので、作業・専門チーム体制を作る必要性を感じる。
会長 杉本	立地についてだが、公共交通に近いのはベストではある。日本のスタジアムは最寄駅からさらにバスで来なければならないものがほとんどで、これは明らかなマイナス。ただ、例えば東京明治神宮外苑前にある秩父宮ラグビー場は最高の立地条件であっても週末開催でも満員にならない。駅から遠くてもだめだが、近ければいいわけではない。 愛鷹競技場を当面使っていくものとして、将来の理想に基づいた具体化においては立地も念頭に置く必要がある。地域の核となるのであれば、スポーツスタジアム＝郊外では困難。
県商工 会連合 会 池谷	我々は県内の経済関係団体として参加の声がかかったものと思う。その観点からは、街中にスタジアムがあった方がいいだろうと思う。ビジネスというか民活との兼ね合いができればと思う。北九州スタジアムのように100億円かかるとすれば、すべて行政が負担するのは無理だろう。民活をどういように入れていくのか、ビジネスになりうる部分がどの程度あるのかというところまで検討したい。 質問だが、愛鷹競技場の改修は、座席の増設やオーロラビジョン整備などをしなければならないはずだが、どの程度かかるのか想定はあるか。
沼津市 光林	現在、沼津市がホームタウンとしてどういう支援ができるかという視点の中で、沼津市が愛鷹競技場について調査を行っている。アスクラロは当面J2に上がることを目標としているので、今のホームスタジアムを改修してJ2に対応させておいて、将来の新スタジアムを、という流れが現実的かなという考えは持っている。 対応改修にはどの程度費用が掛かるか、Jリーグにも入っていただき整理している。結果はこの3月までにまとめ、第3回の連絡会にはみなさんに結果を説明しようと考えている。

静岡県 都市局	愛鷹競技場に関しては、サッカーだけのスタジアムではない。各種競技、県東部のある程度の大きな大会を開催するスタジアムという位置づけ。改修をもし仮にするとしても、今日の参加団体とは別に他のスポーツ団体などのご理解が必要になってくる。
小澤	改修についてすべて県で負担するというのは、理解が得られるかという点と厳しい。サッカーだけ、いちスポーツクラブだけのために他の競技団体に我慢してもらおうというのは困難。税金を投入するのであれば県民の理解を得ていかなければならない。地域でこのクラブを盛り上げる機運がなければ、同じ税金を投入するにしても状況は変わってくるのではと思う。 仮に愛鷹競技場を J 1 規格に改修するとしても、東側は崖となっており、また都市公園であるため建蔽率や緑化率など制約もあり、(J 1 対応に必要と思われる) 拡張は現実的ではない。 J 1 対応の新スタジアム建設の見込みがないと愛鷹競技場の改修内容は決まらない。それを踏まえて J 1 スタジアムの構想を議論していただければと思う。
沼津観 光協会	私はあまりスポーツをしないが、アスクラロは J F L のころから応援している。スポーツは触れていくとどんどん好きになるもの。アスクラロには J 2、J 1 へと昇格していつてもらいたい。
土屋	J 2 を目指すには応援する人を増やすこと、そして県のお金だけではなく民間からも出して機運を高めることも必要と思う。経営者の仲間でもそのような話をすることがある。税金のみに頼るのではなくできればいい。 スタジアムは施設単体でみれば赤字というのはわかる。公的な施設として考えれば経済的な波及効果はすごくおおきなものがある。人に来ていただいて、東部地域にお金を落としていただく経済波及効果は相当なものがあると思う。新スタジアムは、沼津駅高架の問題と絡んでスタジアムを建設していけると面白いものになる。とりあえずまずは愛鷹を J 2 へのための場にできないかと思う。
会長 杉本	一つ例を挙げるとシュトゥットガルト市のスタジアムがある。ここは 1993 年に世界陸上を開催したスタジアムで市が所有していた。市に本社のあるダイムラーが 250 億円で買い取り、クラブに寄付し、30 年間のネーミングライツの「メルセデスベンツアリーナ」とした。 行政のみに頼るのではなく、企業にビジネスチャンスを与えるような形でスタジアム建設資金を補っていく考え方も持つべき。 沼津の産業資料では、従業員数も減り、製造業もサービス業も落ち込んでいる。観光データでは沼津以外の東部では首都圏からの観光客が多い。サッカー面ではこの地域は清水エスパルスの商圈。東部地区だけを商圈・市場として考えるのではなく、東京から日帰りで来れて逆にここに住む方が首都圏に通勤できるという立地を考えると、そちらのほうまでサポーターになってもらう。試合を見たついでに富士山や伊豆に観光に行くことまで含んでいく青写真はアスクラロも作るし、東部全体で作る。 静岡県は温泉・富士山など資源がある一方で P R 下手なのが特徴。観光振興の一つのチャンスなので、ここに参加する方々それぞれが利益を享受できるようにしていきたい。 新幹線のおかげで東京が近く、商圈が首都圏に依存しているので、われわれの地域で経済をも

	ってスタジアムを建てていくのが有意義かと思う。
県東部 支援局 広岡	ここまでの流れでは、協力してやっていこうという共通認識だと思う。 県の補助金という観点では、先行するジュビロ磐田、清水エスパルスにこれまでなかった。アスルクラロのみ、沼津のみというだけではなく、東部・伊豆を合わせた 20 市町で一緒にやるということになれば、東部一全体という見せ方になっていけば東部が盛り上がっているという気持ちになってくる。本日参加の三島市、富士市、富士宮市、裾野市とのパートナーシップ協定をさらに広げていって東部全体の盛り上げにつなげていってもらいたい。
会長 杉本	結局スタジアムは、自治体、民間とも儲けられるようなものになっていかないと続かないというところだと思います。 第 3 回では本日で第 2 回の検討内容などを踏まえて方向性を打ち出せるようやっていきたいと思っています。本日はこれで終わりますが、何かご意見などあれば事務局にご連絡ください。
沼津市 高橋	第 2 回連絡会の日程ですが、3 月 22 日（木）10 時から開催となります。 以上を持ちまして第 1 回静岡県東部地域サッカースタジアム構想連絡会を終了とします。